

国立病院機構熊本医療センター

No.204



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

看護師宿舎が完成しました

当院は、旧熊本城域の二の丸に位置し、元々敷地が狭隘なこともあり、職員専用の院内宿舎というものがありませんでした。そのため宿舎確保に向け種々検討を重ねてきましたが、ついに平成26年4月25日、念願の看護師専用宿舎（新築マンション）が完成し、第一陣の入居の運びとなりました。

場所は新町一丁目（院外ですが）、病院から徒歩4分という便利な地にあり、鉄筋コンクリート造10階建45室、1LDK：37.43㎡という仕様となっています。早々に、35名の新採用看護職員が真新しい新居に入居し、快適な社会人1年目の新生活を開始しています。これら新戦力の看護職員が快適なアメニティの住環境の下、熊本医療センターの強力な戦力として今後大いに活躍してくれるものと期待しています。

優秀な看護職員に熊本医療センターを選んでもらうためには、魅力溢れる病院創りが欠かせません。

良質かつ高度で先進的な医療を提供する病院であることは勿論のこと、やはり専用宿舎の有無も重要な選択肢のファクターとなります。早速、6月7日にアクロス福岡で開催される平成27年度看護師

就職説明会でも十分にアピールできることと思います。

そして、院長のモットーである「患者さんに優しく、職員にも優しい病院」を実現するための構想のひとつが現実となったことを何よりも嬉しく思います。

（企画課長 柳田 和憲）



宿舎全景



室内の様子



宿舎エントランス

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「救急医療と専門医療の両立」

土井内科胃腸科医院

院長 土井 賢

日頃より熊本医療センターの諸先生方、スタッフの皆様には大変お世話になっています。

当院は熊本市西部、新港バイパス、アクアドームの先の有床診療所で開設37年になります。当方は5年前に帰熊し糖尿病・高血圧・内分泌疾患を中心とした一般内科診療に従事しております。

熊本で最も驚いたのは救急体制の充実ぶりでした。当院の理事長は高橋毅先生の大ファンで、なにかと電話させてもらっていますが、受け入れを断られることは一度もありません。これがどんなに患者さんにとって素晴らしくかつ得難いことかは全国の現状を考えると驚くべきことです。熊本の救急体制の充実ぶりは、おそらく貴院の救急医療に対する取り組みが地域全体の救急医療をリードされてきたことによるのではないかと推察します。また貴院の救命病棟にお邪魔する機会がありましたが、設備とスタッフの素晴らしい充実ぶりに、この体制あって

の救急対応なのだと感銘を受けました。引き続き沢山の患者さんをお世話になることになると思いますが、先生方おひとりおひとりと患者さんの病態や今後の治療について「顔の見える」連携をとらせていただければと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

私の専門は内分泌・代謝疾患ですが、この3月に退職された東輝一朗先生、現部長の豊永哲至先生はじめ糖尿病・内分泌内科の先生方には大変お世話になっております。毎月第三木曜日に開催される三木会では、糖尿病や内分泌疾患の症例検討に参加させていただき、異所性ACTH症候群や原発性アルドステロン症について発表の機会をいただいたこともありました。他の分野でも多数の研究会や院内勉強会が開催され臨床研究が行われていると聞いております。このような専門医療と救命救急の両立が貴院の特色であり、高度な医療を提供する力の源であり両輪なのだと感じている次第です。先生方お忙しいとは存じますが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



医学生のための臨床研修説明会のお知らせ

平素は研修医の地域医療研修等についてご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。現在、当院では、医学生を対象として病院見学会を毎金曜日に行っております。さて、この度当院における次年度の臨床研修に向けて、医学生のための臨床研修説明会を下記の通り実施することになりましたのでご通知申し上げます。

説明会では指導者および研修医も参加し、医学生との意見交換も行われます。病院機能や研修内容等について紹介し、また、理解してもらう良い機会ですので一人でも多くの医学生に参加して頂きたいと思っております。熊本医療センターでの研修に興味をお持ちの医学生がおられましたら、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

(教育研修部長 大塚 忠弘)

医学生のための臨床研修説明会

日時：平成26年6月7日(土) 13:00~17:00

場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール

QC活動講演会が開催されました

従来、各部門で個別に取り組んできたQC活動を、今年度から河野文夫院長の発案により病院全体で取り組むことになりました。平成26年4月23日全職員を対象にQC活動指導の専門家である湯川好孝先生（ワイワイ品質総合研究所所長）にQCサークル活動の基本、手法についてご講演頂きました。湯川好孝先生は国立病院機構主催のQC手法実践研修など全国の病院、企業でQC活動を指導されています。講演に先立ちテキストを院内WEBで全職員に配布し事前学習を行っていただきました。講演では小集団で行うQCサークル活動の必要性、改善活動の進め方、問題解決の手順、QC手法などについて学び、最後の30分間は演習でデータをグラフ化することで問題点が見えてくることを教



QC活動講演会の様子

わりました。これから、QCサークル活動を全部門、全職員で取り組むに当たり、QC活動指導の経験豊かな指導者から学べたことは、大変有意義でした。

（副院長 片渕 茂）

病理診断科検査室 ホルムアルデヒド対策整備をしました

ホルムアルデヒドは病理学的検査において組織や臓器の固定等に用いられているところですが、それは特定化学物質障害予防規則により換気設備の設置、作業環境測定及び濃度管理が義務付けられているところで



解剖室

凍結切片作成室

す。管理濃度については0.1ppmにすることが求められますが、それは通常の天井換気程度で達成できるものではなく、すべての発生源において密閉化しそこから局所排気を行う必要がありました。幸いにしてそのような装置は既に製品化されているため製作して取り付けるのみではあったのですが、建物の構造上天井裏の排気ダクトスペースが無いこと（研修センターロビーでの工事はこのダクト工事でした。）や折からの職人不足により施工する業者がなかなか見つからなかったことなどから完成までに時間を要し、やっと本年4月に完成いたしました。

（企画課業務班長 中川 浩介）

宮崎医長が博士号を取得しました

当院は、平成17年8月10日に熊本大学大学院医学教育部と協定を締結し、連携大学院である外科再建医学講座臨床国際協力学分野を開講しています。これは、当院に勤務する職員が、働きながら熊本大学大学院に在籍し、博士号を取得することを可能とする研究室です。本分野では、平成23年3月に麻酔科の小寺厚志医師が初めての医学博士号を取得者しました。それに引き続き、昨年度麻酔科医長の宮崎直樹氏が医学博士号を取得しています。宮崎氏は、外科・心外・脳外・整形外科などさまざまな分野の緊急手術において、術後死亡を予測する統計モデルCORESを開発しました。CORESは術前の5項目から、多領域の患者の予測死

亡率を算出することができず。その後行った多施設共同研究で、CORESは再現性が高いことが判明しています。CORESは臨床現場で患者家族へのインフォームド・コンセントに活用できるでしょう。また、病院間の外科技術評価を行う際に対象患者のリスク補正に有用と考えます。

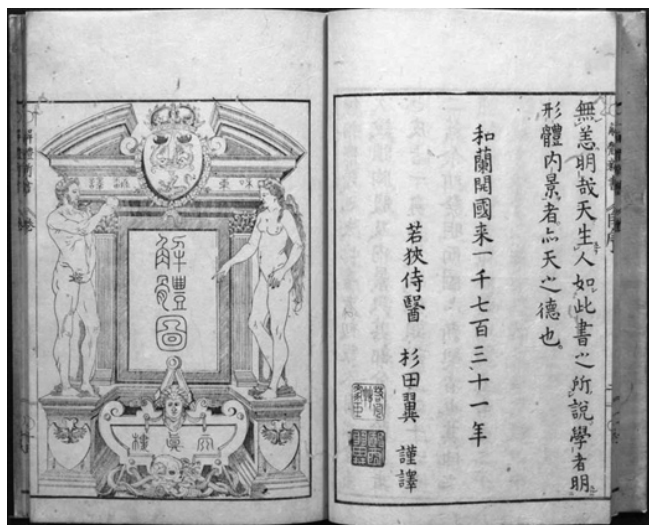
（熊本大学大学院医学教育部外科再建医学講座臨床国際協力学分野客員教授 芳賀克夫）



博士号を取得した
宮崎直樹医長

熊病の歴史

神経内科



「解体新書」 杉田玄白他編

江戸時代・安永3年（1774）

東京医科歯科大学図書館所蔵

「神経」という言葉が日本に登場したのは江戸時代、かの有名な「解体新書」が最初で、それまでの中国医学ではなかった概念を、かの杉田玄白が、一種の生命力・精神力である「神気」と、人体におけるネットワークである「経脈」を合わせて造語したのだそうです。

その後、現代日本の神経内科学が実質的に始まったのは、明治時代、19世紀後半になってからで、ドイツより来日したベルツ医師に学んだ川原汎、三浦謹之助の二人が日本の神経学の開祖といわれています。

三浦謹之助は呉秀三（元東京大学精神科教授）らと協力して、1901年に日本神経学会を設立しますが、これは後に日本精神神経学会となり、現在の、日本の神経内科医にとって中心となる「日本神経学会」が設立されたのは1960年になってからです。

熊本における神経内科学に目を向けますと、日本国内の中においてもその歴史は古く、熊本大学第一内科を起源としており、1950年頃より、勝木司馬之助先生、徳臣春比古先生、荒木淑郎先生、と御高名な先生方の

下で培われてきた歴史があります。水俣病、家族性アミロイドーシス、などを始めとして、数多くの業績が残っており、国際的にも高い評価を得ております。

その流れの中、熊本大学神経内科が発足したのは1995年のことで、初代教授に内野誠先生がご就任されました。発足当初は医局員7名と小所帯でありましたが、その後、新規・移籍合わせて100名近い入局者があり、活気のある医局へと成長しております。その内野誠先生も2011年にご退官され、現在は安東由喜雄先生が第2代教授としてご就任されておられます。

さて、当院における神経内科ですが、1998年に徳永誠先生が赴任されたのが最初で、当初は1名体制で頑張っておられました。実は、徳永誠先生は私のポート部の大先輩であり、同年私が神経内科に入局した際には当院近くの焼肉屋でご馳走になり、神経内科で役立つ教科書などを紹介していただいたという思い出があります。そのときは、徳永先生はややお疲れのご様子で、ハードな職場で働かれているのだなと感じた記憶がありますが、まさか自分がその後を継ぐことになるうとは、当時は夢にも思いませんでした。徳永先生はその後6年間当院で勤務され、最終的に神経内科医師は3名まで増えましたが、2004年に私が幸崎弥之助とともに赴任した際は、残念ながら1名減の2名体制のスタートでありました。しかし、翌年には、非常勤で外来診療のみではありましたが、大先輩の俵哲先生に加わっていただき、2008年には常勤医3名体制と増員となって、現在に至っております。

このたび、神経内科の歴史をとの依頼があり、簡単ではありますが不肖田北が寄稿する運びとなりました。まだ当院における神経内科の歴史は浅く、若輩者の医長として皆様方にご迷惑をかけることも多々あるかと存じますが、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

【神経内科医長 田北 智裕】

最近のトピックス

可溶性サイトカイン受容体の血清レベル上昇と肺病変との関係



臨床検査科医長
武本 重毅

血液専門医として臨床に携わっているうちに、肺という臓器が患者予後に与える影響の大きさに気付きました。そこで、日本で最初に見つかり、その患者の半分以上が九州出身という成人T細胞白血病(ATL)症例を対象に研究を開始しました。ATLはヒトで初めて見つかったレトロウイルス、HTLV-1リンパ球の一種であるCD4⁺T細胞がモノクローナルに増える疾患です。その発症の初期(くすぶり型と分類される段階)より肺の腫瘍性病変が認められますが、長い間その理由はわかっていませんでした。我々は、皮膚と肺の病変で発症したくすぶり型ATL患者の治療経過中に血清保存を続け、可溶性サイトカイン受容体であるsCD30とsIL-2Rの血清レベルの変化を調べました。また、くすぶり型時の肺生検組織でCD30などの免疫染色を行いました。皮膚病変は自然寛解がみられましたが、くすぶり型の段階で既にsCD30レベルは上昇しており、胸水病変出現による急性転化前からその値は急激に上昇しました(図1)。くすぶり型時の肺組織では、浸潤しているT細胞の中にCD30⁺細胞が散在しているのを認めました。したがってATL細胞の一部にCD30⁺細胞が混在しており、この細胞の産生するsCD30がATL病態形成に関わっていることが疑われ

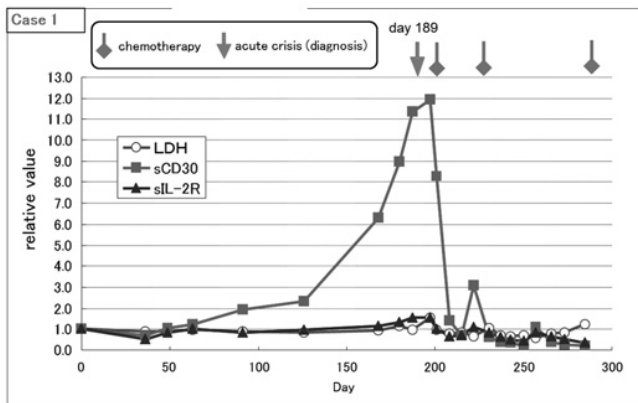


図1. 急性転化の際の可溶性サイトカイン受容体(sCD30とsIL-2R)の変化(Takemoto S, et al. BIO Clinica 2012;27:75-80より)

ました(論文投稿中)。

さらに、現在のATL治療では化学療法後に同種造血幹細胞移植を施行するのが一般的ですが、その治療関連死亡が起こり、特に早期死亡が大きな問題となっています。そこで当院で同種造血幹細胞移植を受けたATL患者で、その臨床病態やsCD30、sIL-2R、LDHなどの血液検査結果と予後との関係を調べました。前処置開始前sCD30値が170U/mL以上の症例では移植後7ヵ月以内に全員が死亡していました。肺病変あるいは再発で死亡した患者でsCD30は高いレベルでした(論文投稿中)。

我々が調べたsCD30とsIL-2Rはともに活性化T細胞の表面から切断・放出される可溶性サイトカイン受容体ですが、その他の産生細胞、結合する細胞、作用はそれぞれ異なります。血中sIL-2R濃度はATL腫瘍細胞量を表すことが知られており、一方CD30はその下流やCD30リガンド下流のシグナルと肺における免疫反応との関係が報告されています(表1)。以上より、ATL細胞のモノクローナルな増殖は肺内の免疫反応の中から起こり(図2)、また同種造血幹細胞移植前処置開始前後のsCD30とsIL-2R血清レベル上昇はATL細胞やウイルス感染細胞の活動と肺における免疫反応を表していると考えられました。

一刻も早くこの検査法を一般に普及させて、患者とその家族の役に立ちたいと思います。

表1. 可溶性サイトカイン受容体(sCD30とsIL-2R)の違い

	sCD30	sIL-2R
産生	CD30発現細胞内の切断酵素活性化 ATL細胞の一部 活性化T細胞 活性化B細胞 ウイルス感染細胞 樹状細胞 NK細胞 制御性T細胞の一部	CD25発現細胞内の切断酵素活性化 ATL細胞の大部分 活性化T細胞 制御性T細胞
結合	CD30リガンド(CD153) 発現細胞 ATL細胞 単球/マクロファージ 顆粒球 T細胞 B細胞	IL-2を介してIL-2受容体複合体に結合 制御性T細胞
作用	CD30リガンドのCD30への結合をブロック CD30Lへの逆シグナル(細胞内活性)	制御性T細胞活性化

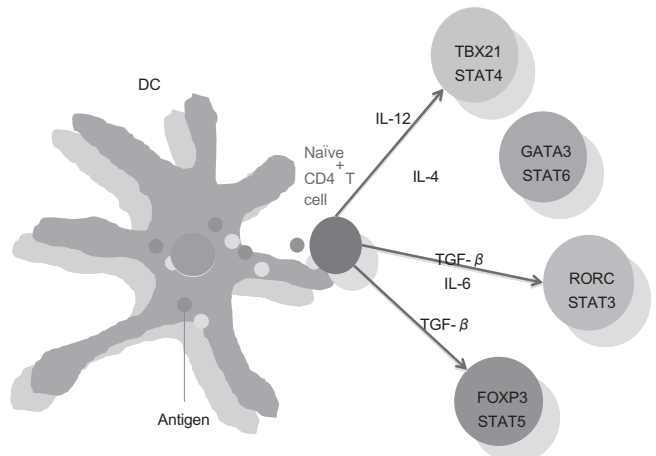


図2. 肺でのT細胞分化(Kong Chen and Jay K. Kolls. Annu Rev Immunol 2013;31:605-633より)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ85回

チームカンファレンスが患者に与える効果

7 東病棟看護師 大平ちえみ 本田代利子

チームカンファレンスの目的は、患者個別の問題についてチームでの情報共有、よりよい看護実践の為の意思統一を図ることといわれています。当病棟は、クリティカルパスで経過する患者が多く、在院日数が約10日と短く、カンファレンスがほとんど実施されていませんでした。平成21年度にカンファレンスの実態調査を実施し、平成22年度は、カンファレンスに対する看護師の認識を変えるための勉強会を行いました。カンファレンスを推進した結果、日々の担当看護師は業務を調整し、カンファレンスに参加出来るようになりました。そこで、平成23年度はカンファレンス後の看護計画の評価・修正、看護ケアの実施が、患者にどのような影響があったのか看護記録から調査を行いました。調査した3症例で、患者の反応に合わせた統一したケアが実践できたので、その中の1症例について報告します。

【方法】

期間と対象：平成23年4月～8月の期間、入院期間20日以上でカンファレンスを計画的に行った3症例
方法：看護計画の評価・修正、看護ケアの実施と患者の反応について看護記録から調べる

【結果】

患者は認知症があり、緊急入院により混乱がみられ、創部の安静が保てていませんでした。カンファレンスを実施し、眠前薬の投与時間の統一や、精神科医師への内服量の調整を依頼することでせん妄の軽減がみられ、創部の安静を保てるようになりました。しかし植皮術後は、術後せん妄が生じ対応がさらに困難となりました。そこで、体位変換は必ず2名で行うことや家族の協力を得て日中の活動量を意図的に増やしていくこと、不穏時の対応をカンファレンスで検討し、看護計画の修正・追加を行いました。看護師全員が情報を共有し、患者の反応に合わせて統一した対応を行ったことで患者は興奮することなく経過することができました。

【考察】

この事例は入院当初、患者の混乱やせん妄症状による行動を注意したり制止したりすることで創部の安静を保とうとしていましたが、カンファレンスで対応の統一を図り、看護計画に挙げ実践したことでせん妄が軽減し、効果が見られていました。体位変換の方法や不穏時の対応に焦点をあてた対策を統一し、その援助内容を看護記録に残していくことで継続した看護ケアの実践につながり患者の創部の安静が保てるようになったと考えます。

【まとめ】

3年間の継続した研究により、カンファレンスに対するスタッフの認識が変化し、意見交換したことを看護ケアに活かす事の効果を実感できるようになりました。今後もカンファレンスを継続させ、よりよい看護実践を目指していきたいと思います。

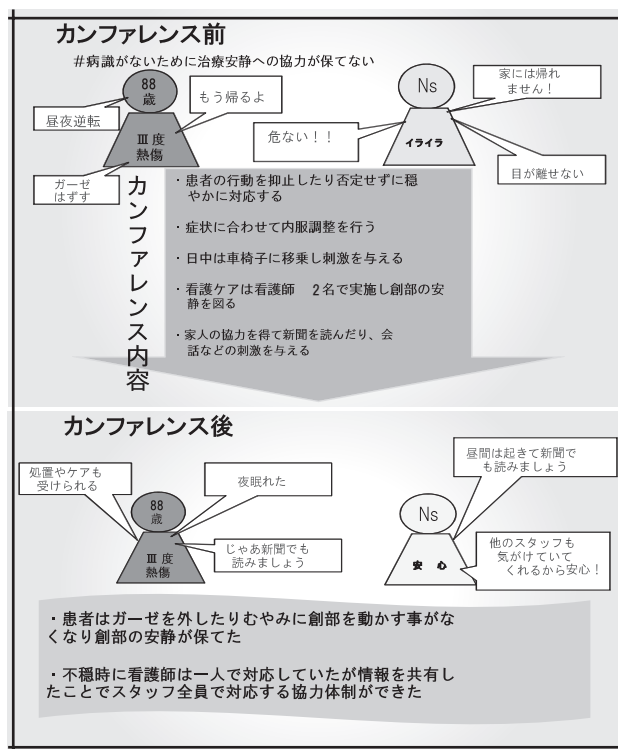
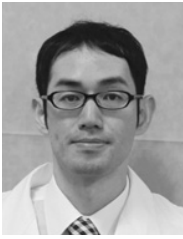


図1. 治療安静が保てない患者への関わり

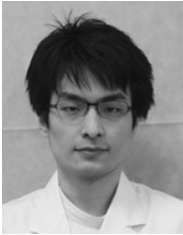
新任職員紹介



消化器内科医師
まつの けんし
松野 健司

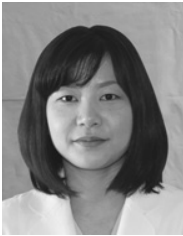
H26年4月から国立病院機構熊本医療センター消化器内科

に勤務させていただくことになりました松野健司と申します。H20年に熊本大学を卒業後、同年4月より熊本大学病院の研修プログラムにて2年間初期研修を受け、H22年4月より熊本大学消化器内科医局に入局しております。1年間熊大病院での勤務を経て、H23年4月から3年間熊本総合病院（旧八代総合病院）消化器内科で勤務しておりました。未熟者ではございますが、消化器内科医師として熊本の医療にできる限り貢献できるよう頑張りたいと考えております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



皮膚科医師
えがしら しょう
江頭 翔

4月より熊本医療センターへ赴任することとなりました江頭翔と申します。初期研修修了後、今年で皮膚科として4年目となります。目の前にあるものを理解する、ということの難しさを感じつつ日々診療にあたっております。何かとご迷惑をおかけするとは思いますが、皮膚科があっただけよかったと思われるよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。



形成外科医師
なかにし
中西 いずみ

こんにちは。4月から国立病院機構熊本医療センター形成外科で勤務することとなりました中西いずみと申します。研修医での2年間、その後形成外科として2年間を熊本医療センターで勤務しておりました。その後は、出産・育児に励んでおりましたが、この度1年ぶりに戻って参りました。

この1年間は医療現場から離れておりましたので、スタッフの方々にはご迷惑をおかけすることが多いかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科医師
つつみ しげたか
堤 茂高

平成26年4月より泌尿器科で勤務させて頂くこととなりました堤 茂高と申します。

平成21年に熊本大学を卒業し、福岡の福岡記念病院で初期

研修を終了後、岡山の倉敷中央病院で麻酔科として3年間勤務しておりました。

御縁があっで熊本大泌尿器科に入局させていただき、熊本医療センターに勤務させていただくことになりました。

熊本医療センターは県内屈指の救急病院であり、様々な治療を要する患者様が多数来院されるとお聞きし、不安な気持ちを覚える一方、多くの症例を経験できる機会に恵まれて期待を胸に膨らませております。慣れないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、熊本の医療に貢献できるよう頑張りますので、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



消化器内科医師
ゆるき ひでと
柚留木 秀人

こんにちは。この度、国立病院機構熊本医療センターに赴任することになりました、消化器内科の柚留木秀人と申しま

す。熊本大学医学部附属病院で医師としてのスタートを切りました。宮崎県立延岡病院、熊本総合病院での勤務を経て、この4月からお世話になります。

実は私は研修医の時に2カ月程救急医療研修でお世話になったことがあります。その当時は、温かいご指導を頂きありがとうございました。今ではルートを取るのに必死だったことを懐かしく思い出します。その頃より少しは成長した姿を見られるよう努力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



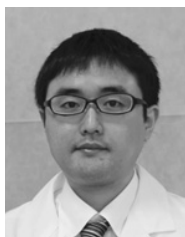
麻酔科医師
ゆるき ともこ
柚留木 朋子

こんにちは。4月から国立病院機構熊本医療センター麻酔科で勤務させていただくことになりました、柚留木朋子と申

します。熊本大学卒業後、熊本大学医学部附属病院と宮崎県立延岡病院で2年間の初期研修を行い、熊本大学麻酔科に入局し、大学病院、熊本労災病院、熊本市市民病院で1年ずつ勤務してまいりました。

三次救急病院での経験が少ないため、緊急手術への対応など不慣れなことも多く、色々ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、熊本の医療に少しでも貢献できるよう頑張りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

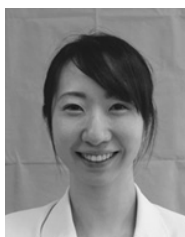
新任職員紹介



脳神経外科医師
甲斐 恵太郎

この度、4月から国立病院機構熊本医療センターに勤務させていただくこととなりました、脳神経外科の甲斐恵太郎と申します。

日常診療から手術手技まで、本院で幅広く学んでいければと思っています。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



外科医師
イトヤマ 明莉

こんにちは。平成26年4月より勤務させていただくことに

なりました外科の糸山明莉と申します。初期臨床研修の後に平成24年に熊本大学消化器外科に入局し、熊本大学病院及び九州大学病院でそれぞれ1年ずつ勤務し後期研修を行いました。今回、地元の熊本に戻って熊本医療センターで働く機会を頂き、外科医として働けますことを本当に嬉しく思っています。新しい環境に早く慣れ、先生方・スタッフの方々と共に、患者様の為に精いっぱい頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

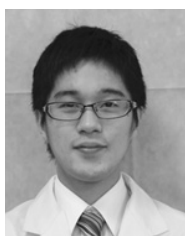


泌尿器科医師
ヤマモト 結美

この度、国立病院機構熊本医療センターに勤務させていた

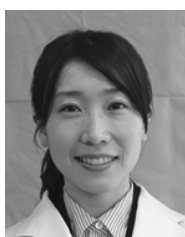
だくこととなりました、山本結美と申します。久留米大学を卒業後、熊本医療センターで初期臨床研修医としてお世話になりました。その後熊本大学泌尿器科に入局し、熊本大学病院、熊本市市民病院に1年間ずつ勤務しました。

臨床研修医としてお世話になった病院で勤務できることをうれしく思う反面、身の引き締まる思いです。少しでも成長した姿をお見せできるよう、精一杯がんばります。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



循環器科医師
ナガマツ 優

この度、熊本医療センターに循環器内科として勤務させて頂くこととなりました、永松 優と申します。初期研修の2年次で1年間お世話になった皆さんとこの病院で働く機会を頂きまして大変光栄に存じます。慣れ親しんだ病院ではありますが1年間離れていたこともあり、また循環器内科医としては未熟でありますので、ご迷惑をおかけすると思っておりますが、皆さんの御助力ができるよう精進して参ります。何卒ご指導、ご鞭撻の程を宜しく御願ひ申し上げます。



糖尿病・内分泌内医師
ほりお 香織

この度、4月から国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科に勤務させていただくこととなりました堀尾香織

と申します。熊本市市民病院と熊本大学医学部附属病院で2年間の初期研修を終了後、熊本大学代謝内分泌内科に入局いたしました。

当病院では、糖尿病はもちろんのこと、電解質異常や救急疾患も数多く診させていただくことになると思いますので、今から少し緊張しています。

慣れない環境で戸惑い、周りの方々の助けを借りることもあるかと思いますが、頑張りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

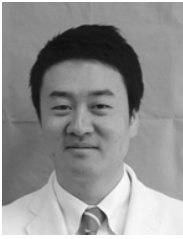


整形外科医師
すぎもと 一樹

こんにちは。平成26年4月から国立病院機構熊本医療セン

ター整形外科に勤務させていただくことになりました杉本一樹と申します。平成23年に熊本大学を卒業後、同年4月より熊本大学病院の研修プログラムにて2年間初期研修を受け、H25年4月より熊本大学整形外科医局に入局しております。1年間熊大病院での勤務を経て、本年度から熊本医療センターにお世話になることになりました。未熟者ではございますが、一生懸命頑張る患者様、皆様方のお役にたきたいと考えております。皆様方にはご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

新任職員紹介



外科医師
とい はた たすく
問端 輔

平成26年4月1日より国立病院機構熊本医療センター・外

科に赴任しました問端 輔と申します。熊本大学医学部を卒業後、熊本赤十字病院にて2年間の初期臨床研修を行った後、熊本大学院生命科学研究部・消化器外科学に入局し大学病院での1年間勤務を経て、今年で4年目です。

熊本医療センターは全国でも有数の救急病院で救急医療のみならず、地域がん診療拠点病院としてがん治療も行っており幅広い患者さんを診れる総合病院です。外科的な診療を通して地域の方に貢献できるよう仕事に励みますのでご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



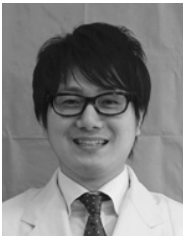
精神科医師
とく やま しょういん
徳山 祥音

この度、国立病院機構熊本医療センターに赴任すること

なりました徳山祥音と申します。

熊本大学医学部を卒業し、福岡徳洲会病院、熊本大学病院で1年ずつの初期研修を行いました。その後熊本大学病院神経精神科に入局し、大学病院にて1年間の勤務を行い現在に至ります。

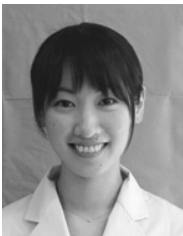
急性期の医療からは随分と遠ざかっており、諸先生方、看護師、薬剤師など多くのスタッフの方々の助けを借りる場面も出てくると思いますが、精神科医師として当院での診療に貢献できるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



精神科医師
もり えだ さとむ
森枝 悟

平成26年4月から熊本医療センター精神科に赴任すること

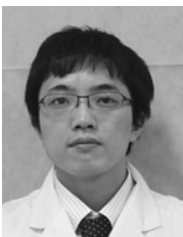
になりました森枝悟と申します。熊本大学を卒業し東京都済生会中央病院で2年間の初期研修を修了後、熊本大学医学部附属病院・神経精神科に入局し1年間勤務しました。医師としてはまだまだ未熟で精神科の先生をはじめ各科の先生方、メディカルスタッフの皆さんにも多々ご迷惑をおかけすることと思いますが、地域中核の総合病院で1年振りに働けるということとはとても楽しみにしております。早く新しい環境に慣れるよう頑張りますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



腎臓内科医師
み うら れい
三浦 玲

この度、腎臓内科にて勤務させていただくこととなりました三浦玲と申します。熊本大学医学部附属病院と宮崎県立延岡病院で2年間の初期研修を行った後に、熊本大学腎臓内科へ入局し大学病院にて1年間勤務いたしました。

当病院では救急対応もあり環境も異なるため大変緊張しておりますが、早く環境に慣れて即戦力となるように頑張っていきたいと考えております。皆様方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



泌尿器科医師
やま なか こうたろう
山中 広太郎

この度、国立病院機構熊本医療センター泌尿器科に4月から勤務させていただくことになりました、山中広太郎と申し

ます。医師4年目で、まだまだ若輩者であり皆様に多々御迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、日々一つ一つの事をこなしていきながら成長していきたいと思っております。国立病院機構熊本医療センターでは数多くの疾患を扱っておられ、また救急も非常に充実しているとの事ですので、自分にとって多く学ぶ場があるはずですし、それに少しでも応えていきたいと考えております。先生方をはじめ、熊本医療センターで働いておられる多くのスタッフの方々の支えの元で日々努めていく所存でありますので、何卒御指導、御鞭撻の程よろしくお願いいたします。



循環器内医師
いしだ としふみ
石田 俊史

こんにちは。循環器内科の石田俊史と申します。私は山口

県下関市出身で、熊本大学を卒業後、熊本医療センターで2年間初期臨床研修をさせて頂きました。その後は熊本大学循環器内科へ入局し一年間大学病院で勤務し、4月から再び熊本医療センターで勤務させて頂きました。医師としての原点である熊本医療センターで再び勤務する事は期待や不安も含め特別な思いがあります。循環器内科医としてはまだまだ未熟で皆様には御迷惑をお掛けする事が多々あるかと思いますが、まずは何でも気軽に相談できるような循環器内科医になる事を目標に、少しでも皆様の力になれるよう日々努力し成長したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

新任職員紹介



消化器内科医師

いちかわ りょう
市川 亮

この度、平成26年4月1日より国立病院機構熊本医療セン

ター消化器内科に赴任させていただくことになりました市川亮と申します。出身・出身大学ともに久留米ですが、実家が熊本であり初期研修は熊本市民病院にて2年間研修し、熊本大学医学部消化器内科に入局し、1年間勤務し、現在4年目です。まだまだ経験も浅く、先生方やスタッフの方々になにかと迷惑をおかけすると思いますが、日々鍛錬していき、熊本の医療に少しでも貢献できるように精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



神経内科医師

かとう ゆうき
加藤 勇樹

失礼します。4月から国立病院機構熊本医療センターに赴任することとなりました、加藤勇樹と申します。よろしくお

願いします。平成23年に熊本大学医学部附属病院を卒業後、同年4月より2年間、熊本市民病院にて初期研修を経験しました。その後熊本大学医学部附属病院・神経内科に入局し、1年間大学にて勤務しておりました。

大学に勤務していたころは、開業の医院・病院から、大変重篤な患者様を一任されておりました。大変ありがたく、また責任も感じておりました。丁寧な診察はもちろんのこと、遅滞なく間違いのない退院報告を送ることに努力致しました。今後ともそのような努力を継続して参りたいと思っております。何卒、御高配賜りますようお願い申し上げます。



小児科医師

やました たかひろ
山下 貴大

こんにちは、この度国立病院機構熊本医療センター小児科

に4月から赴任することになりました山下貴大と申します。熊本大学を卒業後熊本赤十字病院にて2年間の初期研修を終了後、今年の4月から熊本大学小児科に入局いたしました。

小児科医としては1年目であり、何も分からない状態であり、皆さんに多大なご迷惑をおかけすることになるかと思いますが、患者さんから逃げることなく精一杯頑張りたいと思っております。半年間という短い期間ではありますが、ご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



歯科口腔外科医師

ふるその たいき
古園 大気

この度、国立病院機構熊本医療センター歯科・口腔外科および麻酔科で勤務させていただくこととなりました古園大気

と申します。歯科医師となって3年目になります。研修医終了後、九州歯科大学歯科侵襲制御学分野に入局し、歯科麻酔研修医として小倉記念病院、産業医科大学病院にてそれぞれ半年間勤務させていただき、全身麻酔や全身管理について学ばせていただいております。

熊本は私の生まれ育った町です。故郷の医療に貢献できるように頑張ります。至らぬ点も多いため、先生方にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

インターネットプロバイダ変更のお知らせ

インターネットに接続するプロバイダを、国立病院機構HOSPNETから一般のインターネットプロバイダに変更しました。これに伴いEメールアドレスが変更になり、@マークの後が@kumamed.jpとなりました。

〇〇〇@kumamoto2.hosp.go.jp → 〇〇〇@kumamed.jp

従来のHOSPNETのメールは、添付ファイルのサイズ制限が「3M」と小さく、皆様には、大変ご迷惑をおかけしましたが、新しいメールでは、大きなサイズまで添付できるようになりました。多数ご利用下さい。



(副院長 片渕 茂)

研修のご案内

第81回 特別講演（無料）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年6月4日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長 片渕 茂

「膠原病、特に強皮症、の症状と治療」

熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学教授 尹 浩信 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

第185回 月曜会（無料）

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年6月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 胸部画像診断の基礎 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮
2. 症例検討 「多発脳神経障害を生じた肥厚性硬膜炎の一例」
国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助
3. ミニレクチャー「急性膵炎について」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科 松野 健司

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第153回 三木会（無料）

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成26年6月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「MRSA感染を伴った右足壊疽により糖尿病性ケトアシドーシスを発症した一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
2. 「急性腎不全に至った横紋筋融解症を合併した急性発症1型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
豊永哲至、堀尾香織、坂本和香奈、山田周、橋本章子、小野恵子、高橋毅

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501(代表)内線5796

第42回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成26年6月21日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：あけぼのクリニック 理事長 松下 和孝 先生

演題：「末期腎不全の治療」-CKD stage G5の治療-

1. 腹膜透析 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎
2. 血液透析 熊本中央病院腎臓科医長 野村 和史 先生
3. 腎移植 熊本赤十字病院腎臓内科副部長 豊田麻理子 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第133回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成26年6月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「精神科救急(兼DSHカンファレンス)」

国立病院機構熊本医療センター精神科部長

渡邊健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2014年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研 修 室
1日(日)		
2日(月)		
3日(火)		
4日(水)	19:00~20:30 第81回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「膠原病、特に強皮症、の症状と治療」 熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学教授 尹 浩信	
5日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 20:00~21:30 第66回 医歯連携セミナー 「糖尿病の病態と最新治療法」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至	
6日(金)		
7日(土)		
8日(日)		
9日(月)		
10日(火)		
11日(水)		
12日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
13日(金)		
14日(土)	9:30~15:30 第34回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 各種心疾患における心電図 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 不整脈 すえふじ医院 院長 末藤 久和 〈実習〉心電計の取り扱い方 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 他	
15日(日)	9:00~17:00 第90回 救急蘇生法講座~二の丸ICLSコース~ 講師 国立病院機構熊本医療センター救命救急科医長 原田 正公 他	
16日(月)	19:00~20:30 第185回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
17日(火)		
18日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
19日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:00 第15回 市民公開講座 「熱中症について」 国立病院機構熊本医療センター救命救急部医長 原田 正公	19:00~20:45 第153回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
20日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「急性肝炎について」
21日(土)	15:00~17:30 第42回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 あげぼのクリニック理事長 松下 和孝 「末期腎不全の治療」 —CKD stage G5の治療— 1. 腹膜透析 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎 2. 血液透析 熊本中央病院腎臓科医長 野村 和史 3. 腎移植 熊本赤十字病院腎臓内科副部長 豊田麻理子	
22日(日)	10:00~12:00 第254回 滅菌消毒法講座 「滅菌法と滅菌装置」	
23日(月)		
24日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
25日(水)	18:30~20:00 第133回 救急症例検討会 「精神科救急(兼DSHカンファレンス)」	
26日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
27日(金)		
28日(土)		
29日(日)	13:00~17:00 第28回 臨床薬理セミナー 「がん治療の取り組み」 —血液がん、放射線治療、がん専門薬剤師— [日本医師会生涯教育講座3.0単位認定] [日本薬剤師研修センター認定研修2.0単位認定] 1. 血液臨床40年と国際医療協力 国立病院機構熊本医療センター院長 河野 文夫 2. がん診療における放射線治療 国立病院機構九州医療センター放射線科医長 松村 泰成 3. がん専門薬剤師の役割と今後の取りくみ 国立病院機構九州がんセンター製剤主任専門薬剤師 林 稔展	
30日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)